THE JOMO SHIMBUN　昭和62年（1987年）10月25日（日曜日）　第33310号（日刊）

桐生市が積極受け入れ

広域圏のし尿処理

広沢に次ぎ境野（処理水センター）も

大沢市長 町村長に示唆

桐生市の大沢市長は二十三日夜、同市桐生保業部で開かれた「桐生広域市町村長の集い」で懸案となっている広域圏内町村のし尿処理問題について、受け入れられるものは積極的に受けいれたい」との姿勢を明らかにした。同市は今月上旬、広沢水処理センターの広域圏町村下水受け入れについて、広沢地区など地元の同意を取り付けなければならず、今回の大沢市長発言は同市境野水処理センター（境野町二丁目）でも受け入れる意向を示唆したもの。中旬には広域二町四村の全市しし尿処理総合計画（一部二七・七ヘクタール）の推進を加速させるものと期待されている。

同席の集いは、桐生青年会議所（理事長田島重夫）が「地域発展の道を探る」のテーマで開いたもので、所用で欠席した桐生、大間々、薮塚本町、笠懸、新里、黒保根の桐生広域圏六市町村の首長が出席した。

この中で広域圏住民の課題として交通体系の整備、下水道・し尿処理問題が取り上げられたが、「広域の役割」として大沢市長は境境水処理センターに触れ、地元区納得ならば、「町側提案を整備する」とし、現在の敷地増やさないでも、おおむね広域二十一市町村